

「風に立つライオン基金」とは!?

日本はまさに災害大国。毎年のように豪雨による洪水や震災が起り、甚大な被害を受けています。シンガーソングライターで小説家としても活躍しているさだまさしさんは、こうした被災地の支援活動のために「風に立つライオン基金」を立ち上げ、さまざまな支援活動に熱心に取り組んでいます。カーコンビニ倶楽部の林成治社長は、その考え方に共感し、加盟店と協力し合って応援をする活動を始めました。そのさだまさしさんと林社長が、被災地支援やボランティアの現状について大いに語り合いました。二人の熱い対談を2回連続でお届けします。



「財団化したのは、組織として支援を長く続けるためです」

ミュージシャン
さだまさし Masashi Sada

1952年生まれ。長崎市出身。シンガー・ソングライター、小説家。1976年ソロのシンガーとして活動を開始。「関白宣言」「北の国から」など数々のヒットを生み出す。2015年、一般社団法人「風に立つライオン基金」を設立(2017年公益法人として認定)し、さまざまな助成事業や被災地支援運動を行なっている。

さだまさしさんと林成治社長が被災地支援の現状を語り合う

林…さださんもよくおっしゃいますが、最近の豪雨は尋常じゃないことが多いですね。
さだ…僕らが子どもの頃は、雨の勢いが全然違う気がします。
林…昔は、豪雨と言いますが、こんなにひどい豪雨ではなかったですね。
さだ…まあ、何年かに1回あるかないかでした。それが、最近は何年ですからね。日本が亜熱帯になった感じの降り方ですね。
林…さださんは、アフリカで巡回医療をする日本人青年の悩みや喜びを、故郷に残してきた女性への手紙という形で描いた「風に立つライオン」という歌の名を冠した

「風に立つライオン基金」を4年前に立ち上げて、僻地医療や災害救援のボランティアの人たちを支援しています。そのきっかけは何だったのでしょうか。
さだ…原点は、1982年に故郷を襲った長崎大水害でした。あの時は、日本中が長崎に力を貸してくれました。僕自身も、急遽、東京でチャリティコンサートをやりました。その後、東日本大震災や熊本地震の支援のためにライブ会場に募金箱を置いたり、音楽仲間と歌を届けに行ったりする試みを重ね、救援団体との繋がりを育ててきました。このことが大きなきっかけになっていきます。財団化したのは、組織として支援を長く続けるためです。みんなが「元気が出たよ。ありがとう！」と喜んでくれる!!「元気出そうよ」と、ギターを持って歌に行くのは、費用がかかったとしても財団ならできまうからね。で、ついでに、ささやかですが、お見舞金を持って行って、「元気出してね」と言うことぐらいはできませんが、現地に行つてそれをやると、みんな「元気が出たよ。ありがとう」と喜んでくれる。北海道の空知川が暴れた時は、僕は、南富良野町に歌に行つたのですが、翌年は大

変でしたよ。「元気になったよ」と、ジャガイモをいっぱい送って

きてくれてね(笑)。嬉しかったですね。

高校生は、何か一つ目標があったら、そこにワツと力を向けてくれる逞しさがある

林…さださんがステージでよくお話しをしていますが、イザという時に現場に駆けつけて頑張ってくれる若い人たちや高校生も増えているようですね。
さだ…高校生は、もう子どもではないですね。地域のことを考えている高校生もけっこういます。「高校生ボランティア・アワード」を年に一度やっていて、各地

でボランティア活動を行なっている高校生を東京に集めて発表してもらおうですが、最初は声も出なかつた子どもたちが数時間後には、「私たちの活動を知ってください」と大きな声で言えるようになっていきます。ボランティア活動をする子どもたちは、心のどこかで困っている人を助けたいとか、そういうことを感じているので、何か一つ目標があったら、そこにワツと



カーコンビニ倶楽部 代表取締役社長
林 成治
Seiji Hayashi

力を向けてくれそうな気がする。そうした逞しさが彼らにはあるんです。
林…私たちの世代は、高校生の頃はボランティアということにはまったく無関心だった気がします。それほど必要とされていなかった時代なのかもしれないが、今のボランティア活動をしている高校生とは意識が違っていましたね。東日本大震災でほんとうにやらなければいけないことに気がついた!
さだ…今と昔では全然違うでしょうね。最初からボランティアに対する概念が違いますから。でもそれは当然のこと。僕らが若い頃

は、災害が起きた時に現場に行くのは専門家でしたから。24年前に起きた阪神淡路大震災の頃からボランティアの活動が徐々に注目され、一般にもいろいろなものか認知され始めたのではないのでしょうか。あれから、中越大地震を経て、東日本大震災でほんとうにやらなくてはいけないことに気がついて、段々とみんなの認知が広がっていったのです。ただ、災害地に行つて思うことは、情報が圧倒的に足りないことですね。それに、意外に鉄道も航空機も大きな災害になると使い難い。クルマで移動できる人たちはクルマで移動するのですが、道が崩れたところや岩や土砂に覆われた道路ではクルマも使えない。そういうときに自転車があれば移動や、ものを運ぶのに大きく役に立つと思いますね。
林…カーコンビニ倶楽部は、「風に立つライオン基金」を応援するために、同基金のロゴ入りオリジナルモデルの折りたたみ電動アシスト自転車「ECO☆ペダル」を発売して、売上の一部を寄付する活動で協力させていただいていますが、この電動アシスト自転車も被災地では活躍できそうですね。

「カーコンビニ倶楽部は、『風に立つライオン基金』のロゴ入り折りたたみ電動自転車『ECO☆ペダル』を発売して、売上の一部を寄付させていただきます」

